

令和6年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

初等教育教員養成課程
小学校教育専攻プログラム

注意事項

1. 解答は、すべて別紙解答紙の指定の箇所に横書きで記入すること。
2. 解答紙には必ず受験番号（2箇所）を記入すること。

〔問〕 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

小学校からの長い作文教育で、教師から「感じたことを、ありのままに書いてください」と言われたことはないでしょうか。①こういう指導は、こまった教育だとわたしは思っています。それより、「考えたことを、データをもとに、論拠を示し、他人に伝わるように書きなさい」という文章教育をすべきだと。

「考えて、書く」だけでも十分ではありません。根拠のない考えは、「思い込み」の代名詞。自分のなかだけを掘り下げても、たいした発見は得られません。他人はあなたの感情や経験、思い込みや信念を聞きたいのではありません。ひとが他人の人生にあまり関心を持っていないことを、骨身にしみて知ることはいくつでしょう。情報生産者になる、とは、自分だけでなく、他人にとっても価値のある情報を「知の共有財」のなかに付けくわえるという行為ですから、それに値する情報を、生産しなければなりません。

(中略)

文章が論理的であるためには、多義的な解釈を許すような書き方をしてはなりません。どんな用語も一義的に解釈できるように定義し、いちど用語を確定したらたとえ退屈でも最初から最後まで同じ用語で通し、論理をゆるがせにせず、緻密に論証を組み立てなければなりません。なぜなら文章とは相手に正確に伝わってなんぼ、だからです。もし誤読が起きるとしたら、それは書き手の責任。それが研究論文の作法です。

(中略)

社会科学は経験科学です。信念や信条にもとづいて主張を唱えるのではなく、検証可能な事実にもとづいて、根拠のある発見をしなければなりません。わたしはゼミで学生にしゅっちゅう「あんたの信念は聞いてない」と言ってきました。「それは何を根拠に言うの？」とも、しつこいぐらいに聞きました。根拠のない信念はただの思い

込み。「偏見」ともいいます。たとえゼミの議論が盛り上がっているように見えても、論証も反証もできないような各人の思い込みがやりとりされているだけでは、「いろいろあるよね」「いろんな考えがあるよね」で終わり。結論に到達することはできません。こういうやりとりを議論 argument とは呼びません。

他大学のゼミで活発に発言が続いているように見えたケースでも、実はかみあう議論はすこしも成り立っていないことがありました。わたしは質問に回答があれば、必ず質問者に「いまの答えは、あなたの質問に答えたことになるか？」と確認するようにはしてきました。いまどきの学生さんは、ノイズの発生を恐れて、納得のいかない答えやかんちがいのやりとりでも、黙ってのみこんでしまう傾向があるからです。

"Did s/he answer your question?" と水を向けるだけで、「実は半分しか答えてもらっていないのだけれど……」「いや、それが聞きたいんじゃない……」と、質問者が納得していないことがわかります。もし司会者がいるとしたら、司会者の役割はかみあう議論を誘導することでしょう。

(出典) 上野千鶴子 (著) 『情報生産者になる』 ちくま新書、2018年、pp. 028-032
(設問の都合により本文の一部を省略している)

(問1) 下線部①の文章について、筆者はなぜ「こまった教育」だと思っているのでしょうか。本文中の言葉を用いつつ、100字以内で説明しなさい。

(問2) 小学生が議論するとき、下線部②にある「司会者」の役割を教師が務めることがあります。将来、あなたが小学校の教員になったとき、「司会者」として「かみあう議論を誘導する」ためには、どのような点に注意したらいいと思いますか。また、そのようなことができる「司会者」になるためには、これからどのような力を身につけなければいけないと考えますか。320字以上400字以内で論じなさい。なお解答は、「議論がかみあうためには」という文言から書き始めること（「議論がかみあうためには」の文言も400字に含まれる）。